

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 滝村 一彦

学校住所 (岡本キャンパス) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320

(山田キャンパス) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成29年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第2回)

2 会議の構成	委員		
	石井 充子	児童養護施設 夕陽ヶ丘施設長	
	伊藤 順子	(有)ドラッグいとう 専務取締役	
	小林 光士	飛騨ミート農業協同組合連合会 代表理事常務	
	横畑 守	岐阜県指導農業士	
	杉山 和宏	(株)高山電材 代表取締役 【欠席】	
育友会	橋戸 雅彦	全日制育友会長	
	渡久地真由美	定時制育友会長	
学校側	滝村 一彦	校長	
	河渡 正史	副校長 (全日制山田キャンパス)	
	後藤 敦	副校長 (定時制・通信制)	
	高田 功	事務部長 【欠席】	
	池田 哲也	教頭 (全日制岡本キャンパス)	
	金子 佳弘	教頭 (全日制岡本キャンパス)	
	田屋 雅樹	教頭 (全日制山田キャンパス)	
	加藤 久視	教頭 (定時制)	
	垣下 大吾	教頭 (通信制)	
	近藤 和彦	教諭 (全日制岡本キャンパス・教務主任、記録)	

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成30年1月26日(金) 14:50~15:50
高山市民文化会館 2-2室
学校評議員4名、育友会2名、学校側9名が出席

5 会議の概要 (進行 金子教頭)

開会のことば (河渡副校長)
学校長あいさつ (滝村校長)
今年度の学校状況の説明
生徒・保護者等を対象とするアンケート結果と分析
全日制 岡本キャンパス (池田教頭) 山田キャンパス (田屋教頭)
定時制 (加藤教頭)
通信制 (垣下教頭)
学校関係者評価、学校へのご意見、ご要望等
閉会のことば (後藤副校長)

(1) 学校長あいさつ

2つのキャンパス、3つの過程、全日制の4つの大学科が1つの学校を目指してやってきた。本日の学習成果発表会は両キャンパスが一つになって、成果発表を行うものという位置づけである。

9月に5年に1回行われる全国和牛能力共進会で日本一、1月の和牛甲子園でも初代日本一の二冠を達成した。ともに牛自体は僅差の2位だったが、育て方を含めた生徒の取り組みが評価され総合評価で1位となったことに価値がある。生徒の学ぶ意欲が日本一と評価されたと感じている。他にも園芸科学科と環境科学科の協働による高山駅のプランター事業、ブラジル・オランダへの海外実習、情報処理科の朝市出店、書道部の全日本書道展入賞など、各学科や部活動で活躍が見られる。定時制においてもバドミントン部が県2位、通信制では卓球部が、県団体優勝など成果をあげている。毎日のようにメディアに取り上げられ、市民や本校生徒の励みになっている。本日はぜひ忌憚のないご意見をいただき、今以上の学校を目指していきたいと考えている。

(2) 今年度の学校状況の説明

<全日制 岡本キャンパス>

- ・学習指導については、主体的自主的学習に取り組んでいる。文科省の推進する対話的深い学びを実現している。寄贈されたホワイトボードを有効活用するなどして、生徒同士で話し合い、協働で課題を解決する授業が増え、深い思考力をつける授業を展開している。
- ・生徒指導については、従来から他者への思いやり、身だしなみなどについて継続的に指導しているが、本年度は「あいさつ推進週間」(年間5回)を設け、重点的に取り組んでいる。あいさつ推進川柳などを校内に掲示して啓発している。
- ・MSリーダーズへ287名(25グループ)という多くの生徒が参加し、校内清掃やボランティア活動に積極的に参加している。
- ・進路指導では、普通科においては国公立大学への合格者が増える予想である。情報処理科ではすでに滋賀大学に合格している。公務員や一般就職も好調である。
- ・同窓会や育友会の協力で実施するふるさと企業・OB&生徒交流会やインターンシップを通して、地元企業への興味・関心、地元愛を深めている。
- ・普通科では、国公立大学等への進学目標実現はもちろん、自分の意見をしっかりと発言し、広い視野で考える主体的対話的な学習の成果が表れている。
- ・商業科では、商品開発を通して地域の企業と連携したり、高齢者と福祉、地域のイベント企画など地域の課題を研究する姿が目立った。
- ・生活文化科では、フードデザインコースではブライダルをテーマにフルコースを開発。教員自身が専門店研修し知識技術を向上させ生徒に反映している。地域の食材を生かしたメニュー開発などにも工夫が見られる。ライフデザインコースでは、難しい素材の加工など新しい技術にも対応している。
- ・部活動では演劇部の中部大会出場、スキー部の地元開催のインターハイへの多数出場、ハンドボールの日本代表選出などの顕著な活躍が見られた。

<全日制 山田キャンパス>

- ・地元企業や農業関係団体の協力で全国的な活躍をしている。特に生物生産科・動物研究部の和牛肥育の2大会でともに初代チャンピオンとなったことがあげられる。牛も褒められたが自分たちも褒められたことに生徒の喜びが大きかった。お米甲子園でも3年連続金賞(全国トップ5)。それでも昨年優勝しているので生徒は満足していない。
- ・国の事業として知的財産権の研究に取り組んでいる。生産加工流通を通じた農業の6次産業化に向け、知識ノウハウの向上を目指している。
- ・35年間飛騨特別支援学校と全生徒が交流をしてきているが、それに加え本年度は、お互いの教育資源を使った交流を行い、ノウハウを教え合う協働学習を始めた。
- ・駅前のプランター花飾りは昨年2月の高山市議会への提案でおもてなしを自分たちの手で行いたいと始めた。

- ・環境科学科の演習林の有効活用を目指して3年目。切り出した木材が建築物に用いられるところまで見届ける学習をしている。
- ・地元企業より学習用の牛を寄贈していただくなどの協力により、大きな成果が出ており、感謝している。今後とも地域を愛する生徒を育てていきたい。

<定時制>

- ・86名が通学している。1年生の7割の生徒が過去に不登校を経験しているにも拘わらず、ほぼ全員が通学し授業に集中している。学校に居場所があることが大切だと考えている。
- ・学習指導では授業・学校が楽しいと答える生徒が76%。宿題は出していないので、1時間に1枚のプリントを授業で配付しているが、ほとんどの生徒が提出できている。成績補充なども真剣に取り組んでいる。生徒による授業アンケートの肯定的評価が95%を超えていて、教員の情熱や誠意・本気度が伝わっている。
- ・生徒指導では、落ち着いており大きな問題行動はない。月1回程度のペースで外部講師招聘による講演を実施しており、命の大切さや命を守ることなどについて説いている。
- ・進路指導においては、17名卒業予定。進路未定者もあり、就労意識をつけさせることが課題である。

<通信制>

- ・通信制のあり方が変化している。勤労青少年の学びの場から、若年層の再学習の場になっており、不登校や全日からの転編入者が多くなっている。また、発達障がい疑われる生徒が増加するなど生徒の多様化が顕著である。気長・丁寧・親切をモットーにきめ細やかに指導している。
- ・自学自習を支援するため、水曜特別スクーリングを設け、日曜スクーリングと同じ内容を行い、個別の指導にあたっている。学校設定科目「ソーシャルスキル」の学習を行い人間関係構築がうまくできるように考えている。
- ・保護者からは、通信制が地域になくてはならないセーフティネットとして存在意義があり、細やかな指導については理解されている。今後とも継続していきたい。
- ・適応指導について力を入れている。十分に行っているつもりだが、PR不足なのか保護者への理解が少ない。
- ・教育相談をさらに充実させたい。
- ・年間25日という少ないスクーリング日の中、様々な行事を行っており、その参加率は東海地区の他校と比べて格段に高い。
- ・進路指導は生徒の実情に合わせて指導している。センター試験受験者は3名あった。チャレンジ精神が大切だと考えている。
- ・部活動では、卓球部が個人で全国大会、団体で初めて東海大会に出場した。自信につながったようである。
- ・主権者教育を生徒会選挙に合わせて行った。

(3) 学習成果発表会の感想および学校へのご要望・ご意見等

意見1

- ・定員割れする地区内高等学校が多い中、安定した入学者数を確保しており、様々なことに取り組んでいる成果が出ている。学習成果発表会では、生徒の元気な姿や活動の様子が見られてうれしかった。また、生徒が本当に生き生きしており、特にファッションショーは技術的にもデザイン的にも立ち居ふるまいも素晴らしいものであった。
- ・定通課程では、先生方の柔軟な思考により運営されている。発達障がいの疑われる生徒でも活躍できるよう様々なことが許容されている。
- ・就職においては福祉離れが懸念されている。求人への応募は皆無に等しい。ぜひ福祉の後継者を作って欲しい。

意見2

- ・ソロプチミスト活動として、高山市のであい塾の支援をしているが、定通の生徒など見えない悩みや課題を抱えている。定通課程では人間関係が深められているところは素晴らしいと思う。

意見 3

- ・学習成果発表会（午前中のみ）では、受付から規律正しく丁寧に案内してくれた。大所帯なのにしっかりと指導されている。発表方法なども工夫されていた。地域産業に密着した発表が多かった。
- ・飛騨牛の中でも雌牛の肥育は難しく、県外に出ていくことに歯止めをかけるために、雌牛の肥育技術の向上に取り組み始めて3年での全国一は素晴らしい成果である。地域でよい牛が出るようになり、生産者としても「高校生に負けるな」という合言葉で頑張っている。宮城での全国共進会に同行したが、県全体にも大きな喜びとなる生徒の発表には大変な感銘を受けた。全国の皆さんが感心する内容だった。
- ・職場に定通課程の出身者がいるが、不登校や人間関係でうまくいかない者が増えている。法制化が進み、障がい者雇用もしているが、多様な人への理解が必要である。
- ・今年の3年生の全国的な活躍が後輩のプレッシャーにならなければよいと思う。
- ・生物生産科の先生方は昼夜を問わず働くが、先生方の勤務について軽減されるとよい。

意見 4

- ・今の高校生は本当にすごい。プレゼンなどの技術に加え、学校を訪れると気持ちよく挨拶をしてくれる。
- ・インターンシップ（宿泊）も受け入れているが、真面目にやってくれた。
- ・定時制卒の生徒を採用したが、農業への意欲は感じたが一週間ほどで辞めてしまい残念だった。
- ・地元で農業の求人を出してもなかなか応募がない。地元で農業をやってくれる生徒には大いにバックアップしたい。ぜひ勧めて欲しい

意見 5

- ・学習成果発表会では、教育が行き届いていると感心した。キャンパス間の協力が見られすばらしい発表だった。両キャンパスがあることで生徒にとっては様々な人と接し、視野が広がることに意義がある。
- ・ファッションショーは生き生きとしており、情報処理科、園芸科学科とのコラボレーションはとてもよかった。

意見 6

- ・TVで和牛日本一のニュースを見て、定時制課程の保護者だが大変誇りに感じた。生徒たちはどう感じたのだろうか。全定通の課程を超えて一つの学校として感じられるとよい。誇りをもって卒業して欲しい。
- ・学習成果発表会後の生徒の表情を見ると、目が輝き達成感に満ちていた。
- ・職場に定通の生徒がいて、よく頑張っているが、自信のなさを感じる。自信をつけてもらえるとよい。

金子（司会）

- ・通信制には育友会組織がないため、今回は保護者代表の意見をいただく機会がなかったが、来年度より通信制の保護者代表にもこの会に参加していただく予定である。

6 会議のまとめ及び閉会

本日はお忙しいところ、学校評議員の会にご出席いただきありがとうございます。皆様からの貴重なご意見は学校に持ち帰り十分検討し生かしてまいります。

石井様には3年間の評議員をお勤めいただきありがとうございます。4名の評議員様には引き続き来年度もよろしくお願ひいたします。以上を持ちまして閉会いたします。

今後とも本校のためにどうぞよろしくお願いいたします。